



## 2025年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年8月14日

上場会社名 株式会社ペッパーフードサービス 上場取引所 東  
コード番号 3053 URL <http://www.pepper-fs.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 一瀬 健作  
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 開発本部長 兼 総務本部長 (氏名) 猿山 博人 TEL 03(3829)3210  
半期報告書提出予定日 2025年8月14日 配当支払開始予定日 -  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年12月期第2四半期（中間期）の業績（2025年1月1日～2025年6月30日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期中間期	7,033	0.7	△121	-	△118	-	△189	-
2024年12月期中間期	6,982	△4.1	1	-	24	-	△19	-

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期中間期	△3.15	-
2024年12月期中間期	△0.35	-

(注) 「潜在株式調整後1株当たり中間純利益」については潜在株式は存在しているものの1株当たり中間純損失であるため記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年12月期中間期	5,732	3,322	57.9
2024年12月期	5,642	3,152	55.8

(参考) 自己資本 2025年12月期中間期 3,318百万円 2024年12月期 3,147百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2025年12月期	-	0.00	-	-	-
2025年12月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2025年12月期の業績予想（2025年1月1日～2025年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,618	4.5	11	△85.1	21	△79.8	△90	-	△1.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（中間期）

2025年12月期中間期	61,424,000株	2024年12月期	59,663,800株
2025年12月期中間期	220株	2024年12月期	220株
2025年12月期中間期	60,086,167株	2024年12月期中間期	57,415,424株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 当中間期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 中間財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 中間貸借対照表 .....	4
(2) 中間損益計算書 .....	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(企業結合等関係) .....	8
(会計方針の変更に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(中間損益計算書に関する注記) .....	9
(中間キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	9
(セグメント情報等の注記) .....	9
(重要な後発事象) .....	11

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績の状況

当中間会計期間におけるわが国経済は、緩慢的な回復基調にあるものの、物価高騰の長期化や金融政策等の影響により、消費意欲が低迷し、更に米国の関税政策などによる海外経済の減速や中東地区等の地政学的緊張を背景に引き続き先行きが不透明な状況です。外食産業においては、全体的に回復基調にあるものの、原材料価格の高騰や人材確保に係る費用の増加など、依然として厳しい環境が続いております。

こうした状況のもと、2025年は『漸進』を当社のテーマとして、お客様へ安心・安全な商品の提供を最優先課題としながら、既存店舗のDX化の推進、アジアを中心とした海外展開、新規事業の発展に注力しました。

しかしながら、売上高は昨年を上回ったものの、株主数増加に伴い株主優待関連が想定より増加したこと、資本金が増加したことに伴う費用が発生したこと、収益性の低下した店舗資産に対して減損損失として28百万円特別損失に計上したことなどから、利益項目は赤字となりました。

これらの結果、当中間会計期間における売上高は7,033百万円(前年同期比0.7%増)、営業損失は121百万円(前年同期は1百万円の営業利益)、経常損失は118百万円(前年同期は24百万円の経常利益)、中間純損失は189百万円(前年同期は19百万円の中間純損失)となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりです。

#### ① いきなり!ステーキ事業

いきなり!ステーキ事業につきましては、引き続き調理技術、店舗サービス力の強化を行いながら、メニュー改定を通じて収益の安定化に努めてまいりました。また、期間限定商品の販売によるお客様数の増加や、各種コラボ企画を開催し、新たなお客様の獲得に尽力いたしました。

国内においては、5月8日より株式会社ブルームダイニングサービスが運営する飲食ブランド「がブリチキン」とのコラボ企画を開催し、期間限定のコラボメニューを販売しました。また、6月1日よりプロゲーミングチーム「Crazy Raccoon(クレイジーラクーン)」とのIPコラボ企画を開催し、限定ノベルティの配布や一部店舗にて店内装飾、コラボメニューの販売を実施いたしました。商品キャンペーンにつきましては、オージービーフェアを開催し、6月6日より第1弾「トライチップステーキ」、6月24日より第2弾「フランクステーキ」を販売いたしました。

海外においては、4月12日にインドネシア4号店となる「Ikinari Steak Hampton Square(ハンプトンスクエア)店」がオープンいたしました。また、フィリピン現地法人である「Easy Food Restaurant Corp.」社とエリアーフランチャイズ契約を締結し、フィリピン国内において積極的な出店体制を構築いたしました。なお、インドネシア、台湾、フィリピンの既存店の運営については好調に推移しております。

この結果、当中間会計期間における売上高は6,719百万円(前年同期比0.6%減)、セグメント利益は663百万円(前年同期比11.2%増)となりました。

#### ② レストラン事業

レストラン事業につきましては、4月1日より「炭焼きステーキくに」にて、「国産サーロインステーキフェア」を開催、「こだわりとんかつ かつき亭」では、期間限定で「春の御膳フェア」を行い、品質訴求を図りました。すき焼き業態の「すきはな」では、商品力の強化として、4月25日より神戸牛の取り扱い開始、コースメニューの追加をはじめとするメニュー改定を行いました。海鮮居酒屋業態の「かいり」においては、5月12日より各店舗の特徴を活かした夏の限定メニューを販売し、季節感のある商品展開を行いました。

この結果、当中間会計期間における売上高は286百万円(前年同期比48.3%増)、セグメント損失は18百万円(前年同期は16百万円のセグメント利益)となりました。

#### ③ 商品販売事業

商品販売事業につきましては、「冷凍ワイルドステーキ」、「冷凍ガーリックライス」、「冷凍ハンバーグ」の他、家庭でもお店の味が楽しめるよう、オリジナルスパイスやソースを各大手モールにて出店販売いたしました。また、4月23日よりイトーヨーカドーにて、いきなり!ステーキ監修のソースを使用した「牛味付カットステーキ(精肉)」を期間限定で販売いたしました。

この結果、当中間会計期間における売上高は26百万円(前年同期比3.7%減)、セグメント損失は0百万円(前年同期は4百万円のセグメント損失)となりました。

#### ④ その他事業

その他事業につきましては、店舗FC開発や店舗サポート及び購買に関する間接収益部門の事業となっております。6月1日より株式会社ディーシーティーエンターテインメントが運営するイタリアンレストラン「sumile TOKYO(スマイレ トウキョー)」の運営支援業務を開始いたしました。

この結果、当中間会計期間における売上高は0百万円(前年同期比247.1%増)、セグメント損失は59百万円(前年同期は55百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

当中間会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて89百万円増加し5,732百万円となりました。

これは主に、売掛金が77百万円減少したこと及び事業譲受に伴う計上及び償却によりのれんが189百万円増加したことによるものです。

負債は、前事業年度末に比べて80百万円減少し2,409百万円となりました。

これは主に買掛金が82百万円減少したこと、未払金が36百万円増加したこと、株主優待引当金が40百万円増加したこと及び未払消費税等(流動負債・その他)が94百万円減少したことによるものです。

純資産は、前事業年度末に比べて170百万円増加し3,322百万円となりました。これは主に、利益剰余金が189百万円減少したこと及び第14回新株予約権の行使に伴い資本金、資本剰余金がそれぞれ176百万円増加したことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想につきましては、当中間会計期間の実績値等を踏まえて修正しております。詳細につきましては、2025年8月14日付「2025年12月期 中間期業績予想値と実績値との差異及び通期業績予想値の修正に関するお知らせ」及び「中期経営計画の進捗及び見直しに関するお知らせ」を御参照下さい。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2024年12月31日)	当中間会計期間 (2025年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,179	2,193
売掛金	607	530
商品	154	138
貯蔵品	29	34
その他	552	474
貸倒引当金	△30	△30
流動資産合計	3,493	3,340
固定資産		
有形固定資産		
建物	567	585
その他	132	171
有形固定資産合計	700	757
無形固定資産		
のれん	—	189
その他	67	67
無形固定資産合計	67	256
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,105	1,110
繰延税金資産	43	38
その他	243	239
貸倒引当金	△11	△11
投資その他の資産合計	1,381	1,377
固定資産合計	2,148	2,391
資産合計	5,642	5,732

(単位:百万円)

	前事業年度 (2024年12月31日)	当中間会計期間 (2025年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	793	711
未払金	280	316
未払法人税等	63	75
契約負債	16	14
資産除去債務	20	13
株主優待引当金	30	70
債務保証損失引当金	68	63
事業構造改善引当金	1	1
その他	443	362
流動負債合計	1,719	1,629
固定負債		
長期契約負債	14	39
資産除去債務	404	403
事業構造改善引当金	4	3
その他	347	332
固定負債合計	770	779
負債合計	2,489	2,409
純資産の部		
株主資本		
資本金	10	186
資本剰余金	3,107	3,284
利益剰余金	28	△160
自己株式	△0	△0
株主資本合計	3,146	3,310
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	0	7
評価・換算差額等合計	0	7
新株予約権	5	4
純資産合計	3,152	3,322
負債純資産合計	5,642	5,732

(2) 中間損益計算書

(単位:百万円)

	前中間会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
売上高	6,982	7,033
売上原価	2,884	2,805
売上総利益	4,097	4,228
販売費及び一般管理費	※ 4,096	※ 4,349
営業利益又は営業損失(△)	1	△121
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	0	0
協賛金収入	5	4
受取保険金	20	—
賃貸借契約解約損戻入益	8	—
その他	8	11
営業外収益合計	43	17
営業外費用		
支払利息	1	0
支払保証料	12	12
その他	6	2
営業外費用合計	20	14
経常利益又は経常損失(△)	24	△118
特別利益		
固定資産売却益	0	—
特別利益合計	0	—
特別損失		
固定資産売却損	1	0
固定資産除却損	1	0
減損損失	7	28
特別損失合計	9	28
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	15	△147
法人税、住民税及び事業税	35	36
法人税等調整額	—	5
法人税等合計	35	41
中間純損失(△)	△19	△189

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	15	△147
減価償却費	92	89
のれん償却額	—	8
減損損失	7	28
長期前払費用償却額	2	3
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△3,464	—
債務保証損失引当金の増減額(△は減少)	8	△5
事業構造改善引当金の増減額(△は減少)	△0	△1
受取利息及び受取配当金	△1	△1
支払利息	1	0
有形固定資産売却損益(△は益)	0	0
有形固定資産除却損	1	0
売上債権の増減額(△は増加)	87	77
棚卸資産の増減額(△は増加)	17	12
未収入金の増減額(△は増加)	50	61
破産更生債権等の増減額(△は増加)	3,464	—
仕入債務の増減額(△は減少)	△117	△82
未払金の増減額(△は減少)	△46	82
未払消費税等の増減額(△は減少)	0	△94
預り金の増減額(△は減少)	△0	15
その他	△25	24
小計	95	70
利息及び配当金の受取額	1	1
利息の支払額	△1	△0
受取保険金	20	—
法人税等の支払額	△71	△69
営業活動によるキャッシュ・フロー	43	2
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△22	△121
有形固定資産の売却による収入	0	0
資産除去債務の履行による支出	△21	△15
敷金及び保証金の差入による支出	△35	△27
敷金及び保証金の回収による収入	20	21
預り保証金の受入による収入	3	7
預り保証金の返還による支出	△21	△20
建設協力金の回収による収入	11	11
事業譲受による支出	—	△200
その他	△10	4
投資活動によるキャッシュ・フロー	△75	△339
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△31	—
長期借入金の返済による支出	△527	—
株式の発行による収入	528	352
その他	△1	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△31	350
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△63	13
現金及び現金同等物の期首残高	2,121	2,179
現金及び現金同等物の中間期末残高	※ 2,057	※ 2,193

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

(事業譲受)

当社は、2024年12月25日開催の取締役会において、株式会社フードキャッチが営む飲食店事業のうち、「かいり」ブランド居酒屋事業を譲り受ける事業譲受契約の締結を決議し、同日付で事業譲受契約を締結いたしました。当契約に基づき、2025年3月1日に当該事業の事業譲受を完了いたしました。

1. 事業譲受の概要

(1) 譲受先企業の名称及び事業の内容

譲受先企業の名称 株式会社フードキャッチ

事業の内容 飲食店運営・プロデュース及びFC展開、店舗設計・施工  
労働者派遣事業及び日用雑貨の販売

(2) 事業譲受を行った主な理由

当社は、これまで「いきなり！ステーキ」を中心に牛肉をメインとする飲食店の運営をしてまいりましたが、今回の譲受により、海鮮業態という新たな市場に参入することで、多角化による経営基盤の安定と収益の拡大、強化を図ってまいります。

(3) 事業譲受日

2025年3月1日

(4) 事業譲受の法的形式

現金を対価とする事業譲受

2. 中間会計期間に係る中間損益計算書に含まれる取得した事業の業績の期間

2025年3月1日から2025年6月30日まで

3. 譲受事業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	200百万円
取得原価		200百万円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

仲介手数料等 31百万円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

197百万円

(2) 発生原因

主として今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力であります。

(3) 償却の方法及び償却期間

8年間にわたる均等償却

6. 譲受事業日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	1百万円
固定資産	0百万円
資産合計	2百万円
流動負債	－百万円
固定負債	－百万円
負債合計	－百万円

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当中間会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、これによる中間財務諸表に与える影響はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年12月26日付発行の第14回新株予約権(行使価額修正条項付)の行使に伴う新株の発行による払込みを受け、資本金及び資本準備金がそれぞれ176百万円増加しております。

この結果、当中間会計期間末において資本金が186百万円、資本準備金が176百万円となっております。

(中間損益計算書に関する注記)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
給料手当及び賞与	759百万円	826百万円
雑給	1,092	1,072

(中間キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

※ 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
現金及び預金勘定	2,057百万円	2,193百万円
現金及び現金同等物	2,057	2,193

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	中間 損益計算書 計上額 (注3)
	いきなり! ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業				
売上高 外部顧客へ の売上高	6,761	192	27	0	6,982	—	6,982
計	6,761	192	27	0	6,982	—	6,982
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	596	16	△4	△55	552	△551	1

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、加盟開発部門、営業サポート部門、購買部門等が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△551百万円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、中間損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位:百万円)

	いきなり! ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業	その他	計	財務諸表 計上額
減損損失	7	0	—	—	7	7

II 当中間会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	中間 損益計算書 計上額 (注3)
	いきなり! ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業				
売上高 外部顧客へ の売上高	6,719	286	26	0	7,033	—	7,033
計	6,719	286	26	0	7,033	—	7,033
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	663	△18	△0	△59	585	△706	△121

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、加盟開発部門、営業サポート部門、購買部門等が含まれております。  
 2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△706百万円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
 3. セグメント利益又はセグメント損失は、中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る減損損失)

(単位:百万円)

	いきなり! ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業	その他	計	財務諸表 計上額
減損損失	26	1	—	—	28	28

(のれんの金額の重要な変動)

当中間会計期間において事業の譲受によりのがれんが発生しております。当該事象によるのがれんの増加額は、189百万円であります。

(重要な負ののれんの発生益)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(資本金及び資本準備金の額の減少(減資)について)

当社は、2025年8月14日開催の取締役会において、下記のとおり2025年12月18日開催予定の臨時株主総会に「資本金及び資本準備金の額の減少(減資)の件」の議案を付議することを決議いたしました。

1. 目的

今後の資本政策の機動性を確保することを目的として、会社法第447条第1項及び会社法第448条第1項の規定に基づき、資本金及び資本準備金の額の減少を行うものであります。

なお、発行済株式総数及び純資産額に変更はありません。

2. 資本金及び資本準備金の額の減少の内容

(1) 減少する資本金及び資本準備金の額

資本金の額186,794,488円を176,794,488円減少して10,000,000円といたします。

資本準備金の額176,794,488円を全額減少して0円といたします。

※なお、当社が発行している新株予約権が2025年12月30日までに行使された場合には、新株予約権の行使に伴い株式が発行されることにより増加する資本金及び資本準備金の額と同額分を合わせて減少し、その減少額全額をその他資本剰余金に振替いたします。

(2) 方法

払戻を行わない無償減資とし、発行済株式総数の変更は行わず、減少する資本金、資本準備金の額の全額を、その他資本剰余金に振替いたします。

3. 日程

(1) 取締役会決議

2025年8月14日

(2) 債権者異議申述公告日

2025年11月12日(予定)

(3) 債権者異議申述最終期日

2025年12月12日(予定)

(4) 臨時株主総会決議日

2025年12月18日(予定)

(5) 効力発生日

2025年12月30日(予定)